

【巻頭言】

地域研究成果の発信

Offer of information from regional studies

地域総合研究所長 平野泰朗

地域総合研究所は、地域貢献型研究と社会連携を推進する機関として2015年に設立されました。しかし、地域との社会的連携は、すでにPBL教育や様々なフィールドワークにおいて実施されています。また、地域研究も個々の教員により行われており、研究蓄積も進んでいます。ただ、大学全体からそれらを眺める場所が、ありませんでした。

そのような状況の中、学内で公募する「Smart and Human 研究助成金」研究の枠組みが作られました。この中のいくつかは、共同で行う地域研究プロジェクトがありました。ここでは地域研究が共同で行われ、なおかつ研究助成という制度的枠組みにより、それらを大学全体で俯瞰できる機会が生まれました。地域総合研究所は、こうした事情を背景に生まれました。

したがって、この『地域総合研究所報』には、Smart and Human 研究のうちの地域研究プロジェクトの報告書とそこから生まれた個別の論文が収められています。

このほか、この『所報』には、過去のSmart and Human 研究の成果や独自に進められてきた地域研究の成果が載せられることもあります。これらは、個別の地域研究の成果を学内で共有し、新たな共同研究をもたらさうるものです。

さて、今年度は5つの研究プロジェクトの報告書といくつかの個別論文が載っています。これらのうち、Smart and Human 研究の成果は、学内の評価と外部委員の評価を受けます。こういった仕組みで研究の質を保ち、社会とのつながりを確認していきます。

ところで、摂南大学では、今、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」への応募を検討しています。この事業は、「地域で輝く大学等への支援を行う『社会展開型』」と「イノベーション創出など経済・社会の発展に寄与する大学等への支援を行う『世界展開型』」の2つのタイプがあります。このうち「社会展開型」は、本学の地域研究の趣旨とも重なります。

この事業への参画が実現するかはともかく、摂南大学の地域研究は、研究成果を広く社会に発信することが求められていることは確かです。この『所報』がその気運を高めるのに役立てば幸いです。